福島市市民活動サポートセンター
ふくサポ通信
2019年　若草号
vol.84
http://www.f-ssc.jp

にゃんこ隊長が行く！

ふくしま30年プロジェクト
～福島の未来を担う子どもたちのために～

【通学路の放射線量を測定する様子】

認定特定非営利活動法人ふくしま30年プロジェクトは、2011年3月の原発事故による放射能測定を中心とした活動を開始した「CRMS市民放射能測定所」を経て、現在の「ふくしま30年プロジェクト」と名称を変更しました。時間の経過とともに活動の幅を広げ、更なる福島の復興へ向け活動をしています。

【活動の拠点となる新しい事務所】

事故直後は、いち早くホールボディカウンター、食品測定器を導入し、身体の測定、食品の測定、健康相談会等を行っていましたが、現在はそれに加え、交流会、また、放射線セミナーやワークショップなど暮らしを回復するための学びの場も提供しています。

特徴的なのは重さ1トンを超えるゲルマニウム半導体検出機という低い数値まで検出できる測定器があることです。これは活動の大きな柱となっています。多くは農業関係の方などが安心の確認の為に活用されていますが、お買い物プロジェクトという、お母さんたちが市場で買った野菜などの放射能の数値を測定するプロジェクトにも用いられます。測定した数値によって「安全だ、危険だ」と決めつけることなく、判断材料を提供していくことを大切にしています。

理事長の佐原さんはこれまでの活動を振り返り「原発事故から8年が経過し、放射能に対する関心が薄れてきています。私たちの役割は、情報がわからないことの不安を払拭する為にこれからも情報を発信し続けることです。」と語ります。さらに「不安を煽るのではなく、かといって安全PRばかりをするものではなく、わかっている事実を伝えることで、それぞれが判断できるようお手伝いする事だと思っています。」と続けました。

今後はこれまでの経験を市民に伝えるため、継続して開催する勉強会やお母さん達の交流会を通して、情報発信や居場所づくりをしていくということです。

【ワークショップ中の
理事長佐原さん】

6月1日～2日に山形で親子で田植え体験ができるイベントを開催します。締め切りは5月21日です。詳細はHPでご確認ください。

«お問い合わせ先»
住所：〒960-0201　福島市飯坂町字一本松11-7
TEL：024-573-5697／FAX：024-573-5698

福島市市民・文化スポーツ部市民協働課　課長挨拶

～新任のごあいさつ～

山田　正明

この４月から市民協働課長に就任いたしました山田正明でございます。皆様には多種多様な市民活動、まちづくり活動などを通して地域の活性化に寄与していただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

福島市は、「市民との協働」をまちづくりの基本的な考え方と位置づけ、町内会や自治振興協議会などの地縁団体の皆様や、市民活動団体、ボランティア団体、NPO法人などの民間団体の皆様のご協力をいただきながら、情報の共有や交流、連携を図り、協働のまちづくりを推進しております。また、協働の担い手の育成や市民活動の活性化を図るための取り組みも行っております。

そのような中、市民活動の拠点である福島市市民活動サポートセンターは、認知度も高まり利用者も年々増加傾向にあり、ますますその役割への期待も高まっていると認識しているところです。

本市としましては、サポートセンターを市民活動の拠点として機能充実を図るとともに、助成金による支援や有用な情報の収集や発信に努め、皆様の活動や交流がさらに活性化するよう創意工夫してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ふくしまNPOネットワークセンター理事長挨拶

～初心を忘れずに一新しいステージに立って～

牧田　実

ふくサポは、福島市の協働のまちづくりを支える拠点施設として、2005年3月にラヴィバレー番丁に開設され、2010年5月に現在の場所へと移転しました。開設以来、一貫して、中間支援組織である私ども特定非営利活動法人ふくしまＮＰＯネットワークセンターがふくサポの管理・運営に携わらせていただいてきました。

2019年4月からは、指定管理者として、第2期（5年間）の新しいステージに立つことになりました。ふくサポでは、福島市からの委託事業である市民活動ステップアップ講座、ＮＰＯマネジメント講座、市民活動講演会のほか、自主企画として、いきいき夜楽、まちづくりトークカフェ、実践講座、スキルアップ研修などを実施し、また、市民活動の祭典である「ふくしま市民活動フェスティバル」の事務局も担ってきました。提供できる会議室すらなかった開設時とは、質量ともに、比較にならない充実ぶりと自負しておりますが、それが当事者の感慨に過ぎないことも肝に銘じたいと思います。

初心を忘れず、ふくサポが市民のみなさんにとってより身近でより使いやすい拠点となるように、スタッフ一同、いっそうの努力をしていきたいと思います。どうぞみなさんの声を届けてください。今後ともふくサポをよろしくお願いします。

NPO/NGOの 組織基盤強化のためのワークショップ

5/16 木

講座
学び合う
組織基盤強化の考え方を学びます

考える ワークショップ
組織課題を深堀します

知る 事例報告
他団体の事例から気づきを得ます

活動や事業を発展させるために欠かせない取り組みが「組織基盤強化」です。ミッションやビジョンの実現に向けて、「組織基盤強化」とは組織のありたい姿とのギャップとその原因（＝組織課題）を深堀りし、その課題解決を図る取り組みのことです。一度立ち止まって、自分の組織について考えてみませんか？

■定　員／40名程度（先着順）
■参加費／1,000円（資料代含む）
■対　象／NPO/NGO、市民活動団体リーダー・スタッフ・理事など
■会　場／福島市市民活動サポートセンター
■お申込み・問合せ／TEL 024-526-4533
※詳細はふくサポHPまで！

2019年5月16日(木)
13:30～17:00

主　催／パナソニック株式会社　日本NPOセンター　ふくしまNPOネットワークセンター
協　力／福島市

☆ふかちゃんのつぶやき☆

ふかちゃんことふくサポの常勤顧問である深澤秀樹が、感動したことや疑問に思ったことなど、時事ネタを交えながらつぶやきます。

「心の復興」

今年になって数回、浜通りに行く機会を得た。８年の間すべてが止まったままの地区もあるが、新しい立派な建物などできれいに整備された地区や巨大なクレーンが林立する海岸地区も。そして営業を再開している商店街から少し離れた場所にできた新しいコンビニには作業員らしき人々の多くの車、大きな黒い袋が放置された田んぼの先に見られるのは新しい太陽光発電や風車、などなど。まだまだマダラだが、風景的には確実に復興が進んでいるように見える。しかし、そこに住む人たちに話を聴くと、私の心は複雑にならざるを得なかった。後悔や無念、恨みや諦め、自分の立ち位置に悩んでいる人が未だに沢山いる。復興とは何か、原発事後が絡んだ福島は複雑だ。公共の行う道路整備や学校や病院などの施設整備、生活をするための衣食住や就業への整備などが進めば、人は前を向くことが出来るのだろうか。出来ないとすれば、それはその人の甘えや弱さなのか。

避難が解除されたばかりで、まだ人々が戻らず閑散としている地区の一軒家に、季節外れの「こいのぼり」を見つけた。「私はここに居ます」と主張している。「一人でも、兎にも角にも戻ってきた」「ここで暮らせるようにするんだ！」と、未来に向かって生活を立て直し、自前で生きる術を見出そうとしている。そこには新しいコミュニティーや子ども達の笑顔が生まれつつあると感じ、「心の復興」とは？の答えは解らずとも、私は少なからずそこに救いを見つけた。今月は、多くの人が前向きさを取り戻す再出発の月、4月だ。

福島市市民活動サポートセンター常勤顧問　深澤　秀樹

まちの駅みーつけた！！　～Part⑰ ～

「まちの駅」とは、地域住民や来訪者が求める情報を提供する機能を備え、人と人の出会いと交流を促進する空間施設です。また、まちづくりの拠点となり、まちとまちをつなぐ役割を持つものです。人と人をつなぐ場であるということから、ヒューマンステーションと呼ぶことができます。

まちの駅　波来湯

【趣のある外観】

飯坂温泉に９つある公衆浴場のなかでも人気のお風呂が波来湯です。飯坂温泉駅から歩いて１～２分とすぐ近くにあり、アクセスの良さは抜群です。名前の由来は、『箱形の浴槽だった』ことや、『摺上川の波の来るところにあった』こと、『周囲が岩で囲まれた場所から「ハコ」のようだった』など、さまざま説があり、ミステリアスです。

外観は木造の立派な建物で、平成２３年に建て替えられました。波来湯自体はおよそ１２００年もの歴史があり、県内外の人に親しまれてきました。中に入ってみると、明るくきれいで、エレベーターも完備し、バリアフリーになっています。飯坂温泉といえば熱い湯のイメージがあります。江戸時代に「奥の細道」の松尾芭蕉が温泉に入った際、あまりの熱さに怒ってしまったというエピソードもあるそうです。波来湯には熱いお湯と適温の二つの湯船があり、どなたでも入りやすくなっています。最近増えている外国人観光客のために英語表記も追加しました。また、石けんやタオルなども販売・貸出されており、手ぶらで気軽に温泉を楽しめます。誰でも入りやすいよう配慮されており、それが人気の秘訣なのだと感じました。

隣接する波来湯公園には、手湯・足湯、小さな神社などもあります。目の前の川には鳥が浮かんでいて、温泉街の景色に癒されのんびりできます。ベンチも並んでいて、おすすめの休憩スポットです。

波来湯を管理する福島市観光開発株式会社の佐藤さんによりますと、「飯坂はまち並みもレトロなので、その情緒を味わってください。トイレ休憩だけの利用もどうぞ。」とのことでした。飯坂の名所を巡ったあとは、ゆっくりと温泉に使ってみてはいかがでしょうか。

«お問い合わせ先»

住所：福島市飯坂町字十綱町30
TEL ：024-542-5223
営業時間：6：00～22：00　定休日:火曜日(祝日の場合は営業)

【分湯槽を囲む足湯】

編集後記

- 新緑の眩しさに心浮かれながらも日陰を選んで歩く、そんな季節の到来に乾杯！（ふかちゃん）
- 新緑の季節！！「さあて、どこへ行こうか？」今年こそ、企画倒れで終わらせないぞ！（マータン）
- いよいよ「令和」の時代が！「平成」でのあれこれがリセットされるようでワクワクします。(みー)
- 新元号も決まりました。気分も新たに頑張りたいですね。　(K)

福島市市民活動サポートセンター「ふくサポ通信」2019年若草号 vol.84

発行日／2019年 4月30日　　編集／認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター
発行／福島市市民活動サポートセンター　〒960-8041 福島市大町4-15 チェンバおおまち3階
TEL 024-526-4533　FAX 024-526-4560 URL http://www.f-ssc.jp　MAIL f-ssc@bz01.plala.or.jp